

Q4：「心のノート」を効果的に活用するための留意点を教えてください。

A： 「心のノート」は児童生徒が日常生活の中で自ら活用する冊子です。すべての児童生徒が、このノートを効果的に活用するように、教師は折に触れて話題にし、見通しをもって活用することが大切です。特に、次のような点に留意して活用することが考えられます。

(1) 児童生徒の日常的な活用につながる機会をつくる。

学校の日常生活の中で「心のノート」を活用する機会をつくることで、児童生徒はそれをきっかけに「心のノート」に一層親しみ、生活の一部として活用することが考えられます。

- ・朝の会や読書タイムで読む。
- ・帰りの会に「心のノートを読む日」をつくる。
- ・週末には持ち帰り、家族と話題にする。
- ・週1回、書き込む時間をつくる。



(2) 道徳の時間の一部で見通しをもって活用する。

道徳の時間の一部での活用の方法として、次のようなことが考えられます。

- ・補助資料として、気付きにくい考え方を知るなど内容を深める際に活用する。
- ・体験的な活動を取り入れた場面で、記入する時間をつくったり、記入した内容をもとにして話し合ったりして、道徳的価値を深める際に活用する。
- ・終末資料として、メッセージや詩、名言等を取り上げ、学習したことを明確にするために活用する。

(3) 各教科等の学習の中で適時取り上げる。

- ・各教科の学習において、教師が年に1～2回程度取り上げ話題にする。
- ・特別活動において、学級活動の内容(2)や学校行事等で活用する。
- ・総合的な学習の時間において、児童生徒のテーマ探しのヒントや学習への糸口などとして活用する。

(4) 学校での指導計画等に柔軟な形で位置付ける。

学校として「心のノート」の活用について共通理解を図り、教師の創意工夫が反映できる柔軟な形で指導計画に位置付けることが大切です。例えば、次のようなことが考えられます。

- ・道徳教育の全体計画に扱いの方針を明記する。
- ・道徳の時間の年間指導計画の一部に位置付ける。
- ・学級経営案や学級における指導計画に扱いを示す。

(5) 保護者や地域の人々との共通理解の上で活用する。

児童生徒の意欲的な活用を促す環境づくりをするために、保護者や地域の人々への啓発も含めた共通理解を図ることが大切です。例えば、次のような機会をとらえて働きかけることが考えられます。

- ・児童生徒の活用の様子を学級通信で紹介する。
- ・保護者会で「心のノート」を開いて話題にする。
- ・公開授業で活用する。
- ・公民館や地域の掲示板等に貼る。
- ・学校評議員会等で理解を求める。

< 参考資料 > 「平成14年度道徳教育連携・推進講座資料」文部科学省 独立行政法人教員研修センター